台湾演奏旅行総括（その1）

2018／H30．10．21

吉永豊彦、佐々木道治、永井哲郎

① はじめに

2017 年１月の運営委員会での台湾演奏旅行の発案からスタート。

田中さんルートの蘇慶俊先生、伊原さんルートの曾煥棋先生、永井ルートの神戸大学同窓の台北前理事長張大維さんとの接触を繰り返しながら、その年の４月から本格的にメールでのやり取り開始。

途中の音信不通の期間を経て、11 月には吉永、佐々木、永井の３名が訪台して、打ち合わせを行う。

当初予定のジョイント相手が≪心韻合唱団≫から≪心築愛楽合唱団≫に変更はあったものの、当初から≪Formosa Singers≫ ≪喜悦女声合唱団≫の指揮者：蘇慶俊先生（輔仁大学の音楽の先生）に一貫して段取りを進めていただく。

また、台湾側の窓口は途中変更があったものの、Formosa の唐萬欣さん（東呉大学４年生）が担当して、当日の案内役から演奏会の司会・通訳さらにはバスの手配から外国人演奏許可申請・日台交流協会への助成金申請を含め、縦横無尽の活躍で、まさに、日台交流のお手本のような活動をしてくれる。

彼女は来春から、同志社大学に６か月の留学が内定している。

② 2018．10．12 ～ 15：３泊４日の台湾演奏旅行

参加団員：トップテナー／ 小林・佐々木・西本・松岡、
セカンド　／ 大隅・桐ヶ窪・寺井・平林
バリトン　／ 伊原・岡澤・佐々木・藤澤・前田・松井・吉永
ベース　／ 石井・井上・奥村・田中・坪内・徳重・永井・三木
ピアニスト　／島崎　　＊計 24 名
＊家族の方の参加・８名　／総計 32 名

台風 21 号による関空の閉鎖や、関空までの連絡橋の破損等で台湾に行けるかどうか不安の中、10 月６日以降は台風の襲来はなく、関空の機能回復・連絡橋の復旧で、関空から予定通り出発。

１）　１２日は朝７時１５分に、家族含めて 28 名全員が関空Ｈカウンター前に集合、
点呼ののち搭乗手続き開始。無事に手続きを終え、搭乗口まで進む。
各自、朝食を済ませ９時から搭乗開始。
９時 30 分離陸。途中で１時間の時差修正を行い、予定通り 11 時 30 分　台湾桃園空港に到着。
そこからの手続きが長く約１時間かかる。
ＨＩＳチャーターの観光バスで台北の＜お茶屋＞＜行天宮＞＜故宮博物館＞を見学して 17 時にフラートンホテル着。
その後、副団長・井上音楽監督・田中指揮者の各ご夫妻と永井が Formosa の蘇先生、通訳の唐さん、喜悦の程団長および程さん、ピアニストの林さんとの打ち合わせに「アンバサダーホテル」

での晩餐会に出席。
残った団員と家族は、「春梅子」での懇親夕食会。

２）　１３日は新竹市の天主教新竹聖神堂で≪心築愛楽合唱団≫とのジョイントコンサート開催。
教会の聖堂いっぱいの観客（約 200 名）
日本の名歌に心打たれる方多数、台湾の「望春風」は台北駐在経験のある石井さんのソロで万雷の拍手鳴りやまず。
教会から感謝状を受け、それに対して、六甲は金一封を寄贈する。
心築愛楽の各団員から六甲の一人一人にプレゼント。
最後は、庭に出て団員の方の手作りの料理を含むバイキングとお酒で大いに盛り上がる。
１９時半に教会を後にして台北へ。フラートンホテルには２１時前に到着。

３）　14 日は、新北市芸文センターで≪Formosa Singers≫ ≪喜悦女声合唱団≫との ジョイントコンサート開催。
全席指定、700 名収容の会場に 500 名程度の来場者。
≪Formosa≫の透き通った合唱に圧倒され、≪喜悦≫もうまい。
≪喜悦≫の演奏中には客席の田中さんが呼ばれ、田中さん作曲の「忘れていた山」の指揮を任されるというサプライズあり。
≪六甲≫は心をこめ、日本語の発音・発声に気を付けながら、日本の名歌６曲を、合同演奏は平林さん指揮で日本の３曲、蘇先生指揮で台湾の２曲を演奏。
アンコールは、急遽、平林さんが「遊子回郷」を見事な指揮でしめくくる。
その後、ホール近くの「海生楼餐應」に移動して打ち上げ会実施。
各団員が入り混じった形の配席となり、相互交流が一層深まった。
この会場でもプレゼント交換が用意され、たくさんのお土産をいただく。
夜８時過ぎに会場を出て、８時半にホテル着。
その後、ホテルの１室になんと 15 名が集まり夜遅くまで歓談。

４）　15 日は、唐萬欣さん在籍の日本語学科のクラスメイト５名が９時にホテル着。
ランドマーク 101・国父記念館見学コース／パワースポット「龍山寺」見学コース／国立台湾大学見学コースの３つに分かれ、彼女たちの案内で各グループ行動となる。
13 時に、往路と同じガイドさんの案内で、お土産スポットを経由して 15 時に桃園空港到着。
予定より早い 20 時 40 分に関空に到着、荷物を受け取って、解散。

○　全員無事に関空に到着、この間、事故やケガもなく、また体調を崩す方もなくすべての行程を無事に終えることができた。
○　各自の役割を担っていただき、この演奏旅行を成功裏に終えることができました。
有難うございました。

○ (公財)日台交流協会について

台湾の唐萬欣さんを通じて、2018 年後期の助成制度の案内があり
その中の、日本文化紹介のための演劇・音楽・舞踊・伝統芸能等を
台湾で行う場合、経費の一部を助成する。
助成金の限度は、日本・台湾の往復国際航空運賃（エコノミー料金）
の半額まで。この助成制度に沿って、事前に申請書を提出、ほとん
ど台湾側で申請の手続き実施。結果は本日現在未定であるが、
台湾側とのやり取りの中で、台湾の蘇先生から、この助成金を
演奏会経費に使わせていただけないかとの紹介があり、承諾の旨
回答する。(金額の上限は、31,000 円×24 名の半分、372,000 円)
なお、この助成金の制度は台湾の団体が、日本で演奏会をされる場
合も適用される見込みである。

○（公財）兵庫県芸術文化協会について

今回の台湾演奏旅行に関して、後援名義を申請したところ、
後援名義の使用許可が下り、チラシ・プログラムに使用する。
13 日の新竹市の天主教新竹聖神堂でのプログラムにも
14 日の新北市芸文センターの演奏会でも、後援名義を使用。

以上